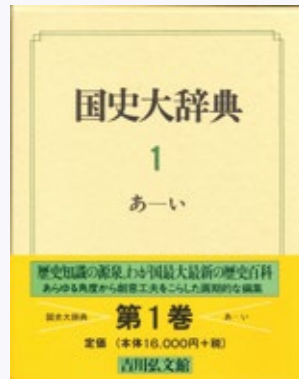


基本コンテンツにプラスするだけ！
地域史料アーカイブにも役立つ！ **二大歴史コンテンツ**

日本歴史の全領域を網羅！
最大級の大百科
国史大辞典 【吉川弘文館】



日本歴史の全領域を収め、考古・民俗・宗教・美術・国語・国文・地理からの必要項目も網羅。最大級の日本歴史百科。

47都道府県の地名研究、
地域史研究の全成果を結集！
日本歴史地名大系 【平凡社】



地名研究・地域史研究の全成果を結集した日本歴史地名事典の決定版。47都道府県+京都市の20万に及ぶ地名項目を収録。

基本コンテンツにも**“歴史”**が充実

- **日本人物文献目録** 【平凡社】
古代～現代の人物3万名に関する伝記資料集。
- **新版 日本架空伝承人名事典** 【平凡社】
歴史上の人物から架空のヒーローまでを網羅。
- **江戸名所図会** 【ゆまに書房・筑摩書房】
江戸の文化・風俗が精緻な挿画で楽しめる！
- **古事類苑** 【国際日本文化研究センター】
明治・大正に編纂の日本最大の百科史料事典。
- **東洋文庫** 【平凡社】
アジアの文化や古典を現代語訳で読める！

全133冊、3750書目、日本研究に必携の一大叢書！

JK Books
『群書類従』(正・続・続々)

古代から近世末期まで、歴史・文学・宗教・言語・風俗・美術・音楽・遊芸・教育・道徳・法律・政治・経済・社会・その他各分野にわたる全書目を分類収録した一大叢書。ジャパンナレッジ Lib と統合検索可能な JKBooks (法人・機関向けの電子書籍プラットフォーム) で読めます。

**トライアル
受付中!**



安曇野市中央図書館

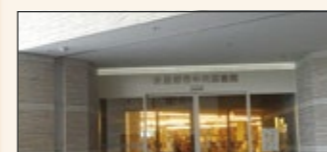
みんながくつろげて
集える場所に

主査 奈良澤一恵さん

2009年9月、北アルプスをのぞむ穂高交流学習センター「みらい」内にオープンしました。「みらい」はホールやギャラリー、カフェなどがある滞在型の複合施設がコンセプト。図書館もそれ



ののって作られています。図書館内のソファがその象徴ですね。ちょっと大きめでゆったりとしていて、くつろげる空間を提供しています。来館者は一日平均で800人、土日だと1000人超えということもあります。試験前には学生さんたちでいっぱいになりますね。貸出機にはICタグを採用。とくに若い人を中心に便利、楽という評価をいただいています。ブックスタートは生後4か月から、おすすめしています。「こどもとしゃかん」という、らせんの本棚が特徴的な子ども専用図書室も好評です。就学前からシニアに至る



まで、みなさんが飽きずに集える場所でありたい。そして安曇野市の中央館として、知りたいことを知ることができる、つねに情報の発信源でありたいと思っています。

住所：安曇野市穂高 6765-2
穂高交流学習センター「みらい」内
電話：0263-84-0111

HP: <http://www.city.azumino.nagano.jp/tocho/kakukan/info.html>

ジャパンナレッジを利用している安曇野、上田、軽井沢、塩尻の4人の図書館びとにインタビュー、そして市民協働の上田図書館倶楽部をクローズ



軽井沢町立図書館

旅行者にも愛される
駅の図書館

主幹 青木友子さん



しなの鉄道中軽井沢駅の駅舎の中にある交流施設「くつけテラス」にオープンしたのが2013年4月。この2年半で来館者数は約48万人。駅に併設しているため、旅行者の方にも気軽に立ち寄りてもら

える図書館でありたいと思っています。館長(青木裕子さん)が元アナウンサーということもあり、朗読にも力を入れています。月一回行なわれる館長の朗読会は多いときで70人くらい来ていただくこともあるんです。また長野県図書館協会さんとの企画で、「朗読駅伝」というイベントも年に一回開催。お題は地元の特産物。たとえば「ブドウ」であれば、『一房の葡萄』など出演者10人程度が各々セレクトした作品を朗読し、タスキをつなげていくという内容です。その際お題の特産物を販売してPRします。ここは観光客の方でも現住所が確認できる身分証があれば登録は可能。一度来られた方には、もう一度来ていただきたくするような図書館づくりをしていきたいです。

住所：軽井沢町大字長倉 3037-18
電話：0267-41-0850
HP: <http://www.library-karuizawa.jp/>



塩尻市立図書館

「困ったら図書館へ」が
コンセプト

司書 大深めぐみさん

「えんぱーく」という子育て支援センターやカフェなど公共と民間が同居する複合施設の中に2010年7月にオープンしました。5年で300万人を突破、来館者



数は年を追うごとに増えているんですよ。めざすは「課題解決型図書館」。利用者の方になにか困りごとがあれば、それに対応できる情報を提供していくよう、心がけています。蔵書はベストセラーに偏らず、いざというときに役に立つ本などをそろえるように、つねに職員がアンテナを張って選書しています。またレファレンスにも力を入れており、ジャパンナレッジをはじめデータベースも積極的に活用しようと、職員内で講習会を企画したり、情報を共有したりしています。利用者の方にもクイズや講習会などを開催してデータベースを広報しています。「困ったら図書館へ」——近代的な建物ですが、本だけではなく、近くの相談先として思い浮かべてもらえるような暖かみのある図書館でありたい。その思いは大事にしていきたいです。

住所：長野県塩尻市大門一番町 12-2
塩尻市市民交流センター内
電話：0263-53-3365

HP: <http://www.library-shiojiri.jp/>



上田情報ライブラリー

市民協働、温故知新の
図書館づくり

主事 近藤歩美さん



2004年にオープンして今年で12年目になります。「暮らしとビジネス支援」「千曲川地域文化の創造と発信」「市民協働の図書館づくり」がコンセプト。駅前という便利な立地条件と、平日は20時半まで開館しておりますので、通勤通学で利用する方が多いです。利用者の年齢層は主に30～50代。実用書を中心に取り揃えており、小説などは持ち歩きに便利な文庫本を幅広く用意しています。いちばん特徴的なのはインターネットコーナー。印刷もできるので、履歴書を作成される方もいます。市民協働の一環として、パソコンの操作支援を月9回、図書館倶楽部(次頁参照)のみなさまにご対応いただいています。上田の歴史や文化を発信する一方で、新しい情報も発信できる「温故知新」が当館のテーマ。来年の大河ドラマは「真田丸」なので、地元の歴史講座にも力を入れています。来館された方には何か一つでも情報を持ち帰ってほしい。そんな図書館でありたいです。

住所：長野県上田市天神 1-8-1
電話：0268-29-0210
HP: <http://www.city.ueda.nagano.jp/tanoshimu/toshokan/library/>



市民協働の図書館づくり、教えます！

前ページで紹介した、上田情報ライブラリー。コンセプトの一つ「市民協働の図書館づくり」とは、いったいどういったものなのか。NPO 法人上田図書館倶楽部情報サービス部会長の西入幸代さんに成り立ちや実際の仕事内容、そして秘訣をうかがいました。

① 「パソコンを教えてあげて」のひとりで

市民協働の図書館づくり

上田図書館倶楽部は上田情報ライブラリーのオープンと同じ2004年に設立、2006年にNPO法人に登録しました。現在会員は50～60名で、部会に所属して活動しているのは30名くらいです。年会費は3000円。当時、上田情報ライブラリーの初代館長だった宮下明彦さん（現長野県図書館協会副会長兼事務局）から、「西入さん、パソコン教えてあげて」と声をかけていただいたのがこの倶楽部に携わったきっかけです。図書館サービスを受ける側ではなく、提供する側になってみるとまた違う図書館の魅力に触れることができます。

② スキルや意欲、時間を活かす場に

上田図書館倶楽部の役割

倶楽部はライブラリーからの受託業務だけでなく、自分たちで企画した事業や、ライブラリー以外からの仕事も請けています。文学講座などを手掛ける学習活動部会、パソコンの操作支援や教室などを行っている情報サービス部会、コンサートなどを企画・運営する文化事業部会、絵本の読み聞かせなどを指導する子ども子育て部会、そして喫茶コーナーを運営する喫茶部会の5つの部会で構成。文化事業部会なんてもう、イベント屋さん。出演交渉からチラシ作りまですべて自分たちで担当しています。喫茶部会はコーヒーを一定の味で提供できるよう研修を受けているんですよ。私は情報サービス部会。倶楽部に入ってから図書館司書の資格も取りました。私たちにとって図書館倶楽部は生涯学習の場でもあると思います。

③ スケジュール管理はクラウドで

情報サービス部会のお仕事とは

情報サービス部会は現在18名。私を含めて主婦の方が多いです。30代、40代という若い世代もいます。男性は4名。受託業務ではパソコンの操作支援のほか、WordExcel塾や地域史料アーカイブのデジタル化、自主企画では月一回の「ネット&カフェinライブラリー」や電子ジャーナルの発行をしています。作業は本業に近く、いろいろとありますが、みんなで分担してやっています。スケジュールはクラウドで共有。「何月何日の操作支援だけど、都合のいい人いる?」「地域史料、この部分のヘルプ頼みます」など申し送りも書き込んで。利用者さんに喜ばれるのがいちばんの励みです。

④ 人が人を呼んで輪が広がる

本のリサイクル市

東日本大震災の被災地に旅行に行った会員が「私たちにも何かできないか」と言い出して、図書館倶楽部の自主企画として始めたのが「本のリサイクル市」。上田城のみみじ祭りの一角にテントを張って、市民から集めた古本を売り、残った本は古本屋さんで買い取ってもらい、その収益金を陸前高田市の図書館の建設費用に寄付。高校生など若者の協力も得て、チラシ配りや販売を手伝ってもらいました。彼らも被災地支援に関わることができ喜んでくれました。若者たち、そして古本屋さん……いろいろとところと連携することでいろんなことができる。いまでは図書館の入口前に、通年古本が回収できる被災地支援用のリサイクルボックスが配置できるようになりました。

⑤ 助成金をとるのもモチベーションのひとつ

『団塊の仕事録』について

助成金をもらって事業をすることも倶楽部の原動力の一つ。団塊世代が退職するとき、自身の仕事の記録を書いてもらったらおもしろいねという話になって、執筆講座「団塊世代の仕事録」を企画。文科省、そして県から助成金をいただきました。執筆に校正、装幀にページのレイアウト、製本まですべて手作り。文章に関しては編集者がついで個別に指導、レイアウトはワードで作るからパソコンの学習にもなります。助成金のおかげで受講料もリーズナブル。完成品は執筆者にデータで渡すので、何冊刷ってもらってもいい。ただし一冊は図書館に寄贈してもらおう。そう、自分の本が図書館にあるというのも、大きな目玉なんです。現在、この企画で生まれた56冊が図書館にあります。もちろん貸出もできます。

⑥ 誇りを持って取り組むプロジェクト

信州地域史料アーカイブ

情報サービス部会のうちの10人が信州地域史料アーカイブ（次頁参照）の史料デジタル化を担当しています。メンバーリストでメンバーを募ったら、続々と手を挙げてくれました。データベースをつくるうえでの課題は金とモノと人だといわれます。でもこのプロジェクトは県立図書館や図書館協会、文書館、歴史館などの機関が連携し、市民である学識者の先生方が史料の選択や現代語訳、解説を手掛け、それを私たち市民10人がOCRでデジタル化し、タグ付けをしています。このように関係機関や市民が協働することで、課題を解決することができます。みんなで一緒に力を合わせてゼロから作っていくことが、大きなモチベーションになっています。



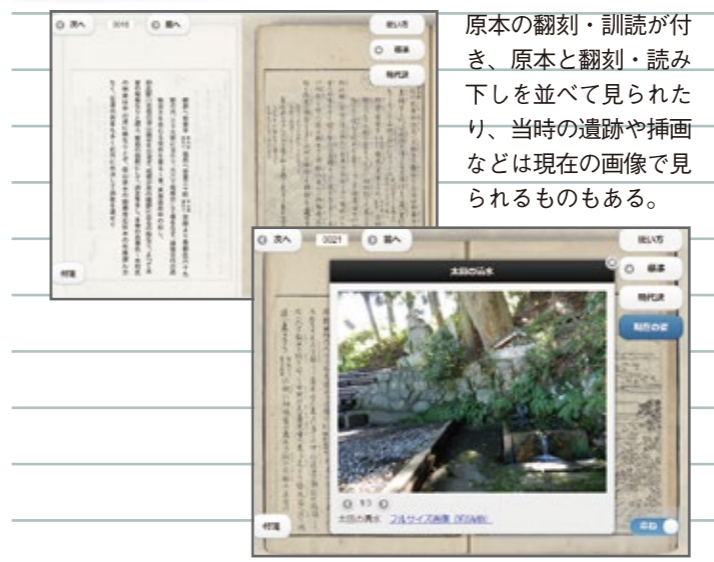
西入幸代（にししいり・さちよ）
1949年長野県生まれ。NPO法人上田図書館倶楽部情報サービス部会長、長野県短期大学非常勤講師。近著に『明日をひらく図書館～長野の実践と挑戦』（共著）。

信州地域史料アーカイブとは？

いま、図書館や博物館などに所蔵されていた、地域史料のデータベース化が日本各地で進んでいます。立ち上げ人宮下明彦さんのインタビューを交えながら、「信州地域史料アーカイブ」に迫ります！



原本の翻刻・訓読付き



原本の翻刻・訓読が付き、原本と翻刻・読み下しを並べて見られたり、当時の遺跡や挿画などは現在の画像で見られるものもある。

原本や写本が見られる！



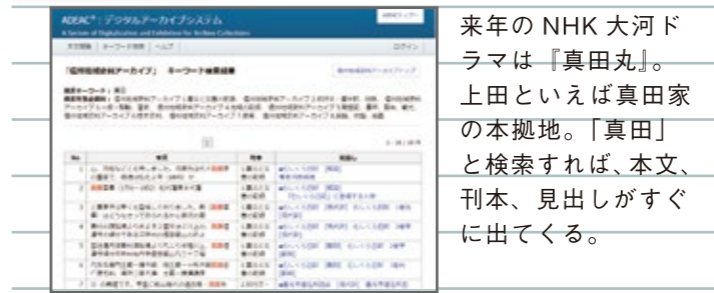
目次ページや目録データから、カメラマークをクリックすると、実際の原本を見ることが出来る。原本画像は拡大・縮小が自由自在という優れたもの。

くわしい解説付き！



専門家による解説が付き、作品についてや、時代背景、作者のことなどがくわしくわかるのもうれしい。

キーワード検索可能



来年のNHK大河ドラマは『真田丸』。上田といえば真田家の本拠地。「真田」と検索すれば、本文、刊本、見出しがすぐに出てくる。

信州地域史料アーカイブへのアクセスは、ADEACのTOPページから。<https://trc-adeac.trc.co.jp/>

立ち上げ人に訊く！ 地域史料アーカイブの意義とは

上田市立上田図書館には有名な「花月文庫」（八十二銀行創立の立役者飯島花月が残した江戸庶民文化・郷土史関係の1万冊を超える集積）があります。その中の『御当代記』は、将軍綱吉のときの幕閣の動きや江戸市井の様子を伝える貴重な史料なんです。でも読む研究者には歯が立たない。でも読める研究者はいるわけだから、彼らに翻刻してもらって読めるようにし、インターネットに公開すれば市民も利用できるんじゃないかと、当時館長だった私は思いました。これがいまから20年くらい前のこと。この『御当代記』は平成11（1999）年にデジタル化するんですが、ただ原本を撮影してネットに上げただけで依然として読めない。これじゃだめだ。読めるようにして、市民が利用できるようにしなければ図書館ではない。貴重史料を書庫に眠らせておくのではなく、市民に還元しなければならぬ。それで4年前、図書館協会に研究会を作ったんです。原本画像を載せるだけでなく、誰でも読めるように、翻刻・読み下し、現代訳、解説というセットでネットに提供しよう。こういった特殊コレクション・地域史料は上田だけで3万冊あるし、県下の図書館や博物館等全部合わせれば数十万冊に上ります。平成25年度から「信州地域史料アーカイブ」事業に取り組んでいますが、対象史料は100点。まだまだほんの一部です。災害に直面したり、現在や将来のことを考えたりするとき、歴史から学び、参考にすることは多いと思うんです。昨年の御嶽山の噴火についても、参考になるのは天明3年の浅間山噴火の災害記録。いくつか史料が残っており、これに関して誰も読めるようにして、利用できるようにしたいと、いま取り組んでいます。作業は非常に時間がかかりますが、根気強く地域史料をアーカイブして、市民に還元していきたいと思っています。

宮下明彦（みやした・あきひこ）
1946年長野県生まれ。長野県図書館協会副会長兼事務局長、長野県図書館等協働機構理事長、上田女子短期大学・長野県短期大学非常勤講師。近著は『明日をひらく図書館～長野の実践と挑戦』（共著）。

信州地域史料アーカイブ
NPO 長野県図書館等協働機構（長野県図書館協会）が中心となり、平成25年度から3か年の図書館振興財団助成事業により、地域史料約100点をデジタル化し、ADEACのシステムを用いて公開。現代訳、翻刻・読み下し、解説が付いているので、地域史料を誰でも読むことができる。「震災と災害の記録」「紀行文・道中記、地誌」など8ジャンルで構成されており、2015年10月現在「むしくら日記」「善光寺道名所図絵」「おらが春」など約30点の史料が公開されている。

ADEACとは？
A System of Digitalization and Exhibition for Archive Collectionsの略。東京大学史料編纂所社会連携研究部門「図書館等所蔵資料の調査・整備研究」の成果に基づいた、デジタルアーカイブの検索・閲覧を行なうためのプラットフォームシステム。TRC-ADEAC株式会社が制作・運営。現在、全国で約30の機関がこのシステムを利用して、地域史料アーカイブを公開している。